



ふるさとの**自然** ————— (27)

身近で暮らすカモ カルガモ

○一年中見られるカモ

市内やその周辺の池や海には、冬に20種類ほどのカモの仲間が渡って来ます。春には北国に帰って行きますが、カルガモは残って子育てをします。

カルガモは全身が地味な茶色のカモで、くちばしの先が黄色い色をしているのが特徴です。カモの仲間には雄がきれいな色をしている種類が多いのですが、カルガモは雄と雌が同じ色をしていて見分けがつかありません。

○最初に見た動くものがお母さん

春になると、水辺に近い草むらに枯れ草を集めて丸い大きな巣を作り、10個ほどの卵を産みます。卵を温めたり、ひなの世話をしたりするのは母親の仕事で、父親はまったく手伝いません。生まれたひなは、すぐに歩いたり泳いだりでき、母親の後を付いて行きます。

カモのひなには、産まれて初めて見た動くものを、母親だと思う「刷り込み」という習性があります。そのため、最初に見た動くものが人間だったら、その人の後をいつまでも付いて歩くことになってしまいます。

(旭市文化財審議会委員 齊藤敏一)